

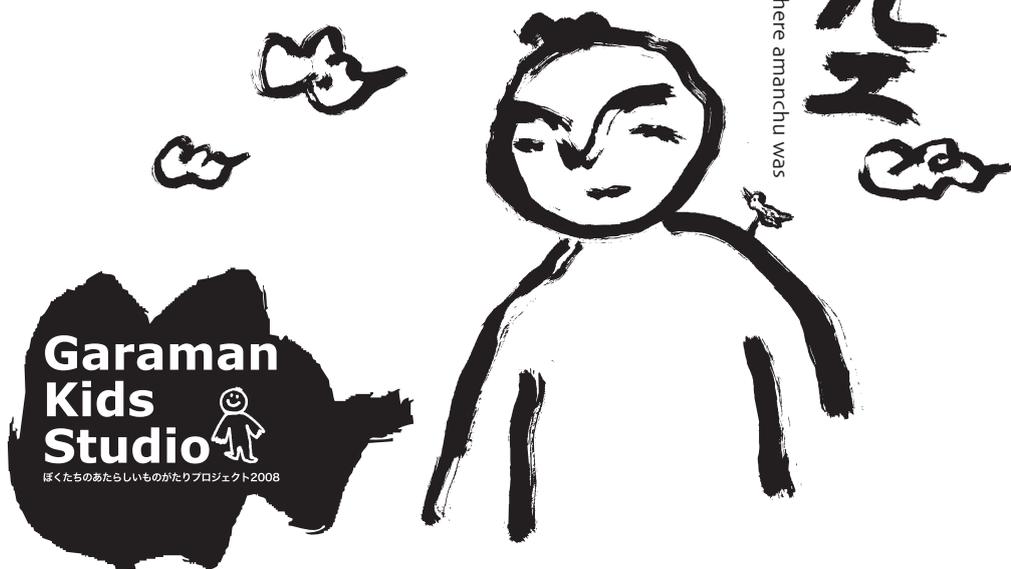
耳をすませて星のものがたりを聞いた。
ぼくたちの一年間のおはなし。

ある日、村に空よりも大きな人、
あーまんちゅがやってきた。
村の人たちはびっくり！
うまくやっていけるのかな？
ともだちになれるかな？

山のむこうからはやさしいうたが聞こえる。

天人のいたる空

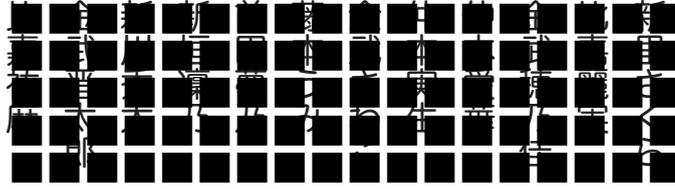
The sky where amanchu was



ぼくたちのあたらしいものがたりプロジェクト2008

音楽劇「天人のいた空」上演台本

出演



(天人／サクラ)
(レイミ)
(ホノカ)
(アイカ)
(タラー／ミオ)
(サワコ)
(ウミ)
(ユメノ)
(リノ)
(シユウタ)
(シントロウ)
(ユウマ)

スタッフ

構成演出・美術 上田真弓
演出助手 岩木桃子
音楽 犬塚拓一郎
照明デザイン 嘉数貞夫
照明操作 知念仁志
ダンス指導 儀武頼人
歌指導 小波津美奈子
美術協力 天願麗
制作・企画進行 小越友也
犬塚拓一郎

主催 宜野座村文化のまちづくり事業実行委員会
後援 宜野座村教育委員会

*二〇〇九年三月二十九日／宜野座村文化センターがらまん
ホールにて上演

■開演五分前アナウンス／ご案内

がらまんキッズスタジオの舞台発表会、音楽劇「アーマンチュのいた空」へ
ご来場いただきまして、ありがとうございます。

がらまんキッズスタジオの「ぼくたちのあたらしいものがたりプロジェクト
2008」は物語を作るプロジェクトです。

春、夏、秋、冬とワークショップでいろんな体験をしました。

春は絵本作り。

新しい小さな物語がたくさん生まれました。

夏は、星空を見たり、楽器を作ったり、耳をすませて夕ぐれの音を聞いたり、
海の生き物と出会ったりしました。

星のお話をいっしょに考えました。

流れ星もたくさん見ました。

秋は、ダンス。

がんばって練習して発表しました。

そして、冬から春。

ぼくたちの一年間の集大成。

お芝居と歌とダンス、今日の舞台を作るために一緒にがんばりました。

ぼくたちの言葉が歌になった。

過ごした時間が物語になった。

音楽劇「アーマンチュのいた空」、もうすぐ開演します。

なお、携帯電話、アラーム付きの時計などお持ちのお客様は、電源を切るか、
音の鳴らない設定にしてください。

それでは、開演までもうしばらくお待ちください。

音楽劇「天人のいた空」

【開演前】

ゆっくりしたやわらかい音楽が聞こえている。

舞台には絵本「天人のいた空」置かれていて、静かに明かりが当たっている。

やがて、音楽遠くに消える。

【開演】

客電溶暗。舞台の明かり、追いかけて消える。

音楽重なる。

暗転中、子どもたち板付き。絵本、舞台奥の台上に移動。

子どもたちの歌で、舞台、明るくなる。

■シーン0 オープニングのうた

♪『いっせんまんねん』

▼演出ノート+説明など。

※宜野座のふたつの小さな伝承を拾いました。／ひとは、がらまん岳の由来。馬の背中のように、鞍がないから、からの馬、転じてがらまんとよばれる、という話。／もうひとつは、アーマンチュウのこと。大きな足跡が残っていて、もうひとつの足跡は伊計島にある。大きな足跡は湖になって、日照りが四十日続いたときにも枯れなかった、という話。／ふたつはまったくばらばらの小さな言い伝えで、そこからイメージして天人(アーマンチュウ)の話を考えました。

※夏と秋に小さな発表会を経て、三回目の上演。シーン、ダンス、歌が加わっている。半分くらいの出演者が入れ替わっている。

※上演後に加筆修正を行っています。

▽絵本の大きさは、約60センチ×45センチ×12センチ。

*溶暗……フェイドアウト。ゆっくり消えること。

*板付き……所定の位置について準備すること。

▽舞台せりの部分で。みんなで小さな円を描いて、集まって立って歌う。

遠くの昔のものがたり
山のむこうのともだちの

遠くの昔のともだちの
出会って別れるものがたり

風がはこんだうたごえきいて
僕たちが眺める空は
いっせんまんねん変わらない

遠くの昔のものがたり
山のむこうのともだちの

遠くの昔のともだちの
出会って別れるものがたり

星が届ける手紙のことを
僕たちは知っている
いっせんまんねんを超えて

僕たちは出会う
星のものがたり
ともだちのはなし

▽間奏で、ゆっくり歩いて広がる。ゆっくり前を向いて
二番。

▽向かいあって、お互いを見合いながら。

▽「僕たちは出会う 星のものがたり ともだちの話」
リピート。

歌声が残る中、舞台溶暗。
子どもたち、静かに去っていく。

■シーン1 プロローグ・浜辺の子どもたち

子どもの声と同時に明るくなる。

客席のあちこちから、登場。

子どもたちは浜辺を歩いている。

シユウタ えー、こっち、早く早く!!

シントロウ 待って待って!

アイカ ころばんでよ。

ウミ 今年はじめて来た、海。

ユメノ ほんとに?

リノ じゃりじゃりいつてる!

ユメノ ほんとだ、歩いたらじゃりつてなるつてば。

リノ だからね。

シントロウ 暑い、暑い、暑いく!

サクラ 歩きにくう。

ホノカ 風吹いた?

ウミ (ホノカに) はあ!

▽宜野座なまり。とても素朴でいい味わいがある。自分で矯正してしまわないように。注意深く拾うようにした。

▽えー!!おーい!

▽少しずつ回数が増えて、本番では「暑い、暑い、暑い、暑い、暑い」と五回言っていた。

アイカ（ホノカに）なにい！？

シュウタ 貝、貝、動きおつた！

女子 ええ？

サワコ それやどかりだよお。

レイミ あい、ほんとだ、こつちも動いた！

ユメノ 見て、これ、めっちゃ小さい！ 小さいのにヤドカリだあ。

ホノカ ほんとだあ！ こつち見て！ もっと小さいのもいる！

リノ どれ？

ホノカ ほら、これ。

リノ ああ、ちっちゃい。

ホノカ ちっちゃいね。

ミオ 見せて見せて！（三人、集まる。）

ホノカ ほら、

ミオ わあ、ちっちゃい！

リノ すっごいちっちゃい。

アイカ 踏まないように歩かないと。

ホノカ・ミオ・リノ うん。

ユウマ はあ、でもいっぱいいるし。

みんな ……。（困る。）

ミオ あ！

みんな 何？

ミオ 下見て歩こう。

みんな ああ！（納得）

▽この三人は、本当にちっちゃい。ちっちゃい三人が、ちっちゃいヤドカリに「ちっちゃいちっちゃい！」とはしゃぐ。とても大好きなシーン。「ちっちゃい」ことはかわいらしいけど、どうしようもない力のなさも内包する。お話の結末への予感でもある、実は、／小ささ、ということ。

▽「踏まないように歩かないと」って言われて踏まれそうな三人が元気に「うん！」と言う。のが面白い。

▽アーマンチュ、天人。天にも届く大きな人。宜野座に足跡が残っているそうです。もうひとつの足跡は伊計島にあるとか。本島南部、佐敷に巨人伝説があり天人が登場する組踊がある。（南城市指定無形文化財）

みんな、しばらく下を見る。そして、ゆっくり歩き出す。

サクラ ……歩きにくい。

ユメノ だからよ。

レイミ こんなしてたら、アーマンチュみたいだね。

ミオ アーマンチュ。

ユウマ なに？ アーマンチュって。

シタ口ウ やどかり？

サワコ やどかりのアーマンじゃないよ。

アイカ アーマンチュ、天の人って書いてから。ものすごい大きかったって。

レイミ ものすごい大きいから歩くときは下見て、気をつけて、ゆっくり歩いたって。

ユウマ どのくらい？

シタ口ウ ゆっくり？

サワコ ううん、大きさだよ。

ホノカ コウサクニイニイくらい？

アイカ ちがうよ、もつとぜんぜん大きい話だよ。

ホノカ コウサクニイニイ、とつても背の高いの？

アイカ うん、ちがうわけ。

ユウマ 家くらい？

みんな うーん。

ユメノ 学校くらい？

みんな ……うーん。

リノ 分かった！

▽サクラは、天人を演じる。ので、「歩きにくい」と言う。かすかな記憶、というような意味を込めている。人を踏まないように、家をつぶさないように歩くのは随分神経を使ったに違いない。

▽こんなしてたらアーマンチュみたいだね。浜辺に自然観察で出かけたときに子どもが言いました。「やどかりいっぱいいるうー」「歩きにくい！」そして、「こんなしてたらアーマンチュみたいだね！」と。空想の人がいきいきとたちあがった瞬間でした。思わず、空を見上げたのでした。

▽やどかりを沖縄の言葉で「あーまん」と言う。多分、天人↓天の人↓天(あま)の(ん)人(ちゆ)に従うと、「あまんちゆ」と表記するのが正しいと思われる。実際、佐敷の天人は「あまんちゆ」と表記されている。参考にした「宜野座の伝承」にアーマンチュと表記されていたので最初そう呼んだ。途中で変更しようかと考えたがすでに子どもたちになじんでいた。私たちはそのまま「アーマンチュ」と呼ぶことにした。

▽親戚のコウサクニイニイは背が高いそうです。

▽アイカ的笑顔には慈愛がある。この台詞の時、ときどき、ものすごくすてきな笑顔をした。本番も。

みんな 何？
リノ 台所くらい？
みんな んん？
シントロウ ジャスコくらい？
ミオ 山くらい？
シユウタ エレベスト！
レイミ ……エレベスト。
ユウマ エレベーター！！
レイミ ……エレベーターだよ。
シユウタ はあ？
女子 はあ……。
ウミ 東京タワーくらい？
レイミ うーん、もつとじゃない？
ユウマ 3階建て！？
シユウタ はあ、意味よお。
シントロウ 3000階建て！
ユウマ はあ？ 大きくなりすぎだし！
ホノカ じゃあ、えーつと……。
シントロウ かいじゅう！
シユウタ ジークフリード！
サクラ 巨大マヨネーズ！
ユウマ 巨大ケーキ！
シユウタ あのよ！
みんな 何？

▽最初の読み合わせで、大きいものって何？というような話をしているときの言い間違いから。素のときが、一番面白かった。残念。再現する力について、常に課題。

▽上手から、シユウタ、ユウマ、シントロウと横並び。シユウタにくさされたユウマがシントロウに仕返しをする。

▽ジークフリードを私は知らない。なぜ、巨大マヨネーズなのか？ 子どもの言葉を拾いましたが、いろいろ謎のままです。

▽これも、なんだか一生懸命しゃべり出したのを拾いました。本当に、みんな、はあ？ってなりました。ココス

シユウタ ココストアのよ、あの、横になってるのをたてにしてから、そ

したら、たてになってるのが長いから、云々。

みんな はあ？

シントロウ かいじゅう、かいじゅう、だいかいじゅう！！

レイミ ……はあ、もうなんかもう分からん。

アイカ 50メートルくらい？

サワコ 100メートル！

ユウマ 1000メートル！

シユウタ いっせんまん光年！

みんな 遠っ！

子どもたち、空を見上げてストップモーション。

サクラ、ミオ、舞台奥の絵本に移動。ゆっくり開いて、読む。

サクラ 昔、島の南の方に大きな大きな人がいました。雲まで届きそうでした。

ここでみんなは、大きな大きな人のことを、天の人、アーマンチュと

呼びました。

子どもたちはその瞬間アーマンチュとして下を見る。

見える景色ははるか遠い地面。

サクラ ある日、アーマンチュは島の北に向かって歩き出しました。

子どもたちはアーマンチュとしてゆっくり、とてもゆっくり歩く。

トアは近所の四角い(?)コンビニです。

▽物語が移動する瞬間。

▼照明変化。

▽天人役とタラー役の二人が絵本を読みます。

▼照明変化。

▼照明変化。

サクラ とてもゆっくり静かに歩きます。家や、木や、人やなんかを踏んでしまわないようにです。

ミオ あんまりゆっくりなので、雨がふったら、人はアーマンチュの下であまやどりをしたし、遠くまで飛ぶ鳥はアーマンチュの肩や頭で一休みをしたりしました。

サクラ やがて、島の北のほうの、まだ草しか生えていなかった山のところでアーマンチュは立ち止まりました。

子どもたちは止まる。

そして、ゆっくりと振り返って、がらまんの山を見る。

サクラ その山は、空の馬とよばれていました。

みんな なるほど、空の青をくぎる山の線は馬の背中のような形です。

シウウタ アーマンチュはゆっくりその山にまたがるように座りました。すると、まったく山は今にも駆け出しそうに見えました。

サクラ アーマンチュは、すっかりおちついたというように、ふう、と小さな息をしました。

サクラ・ミオ それはやさしい風になって、村を吹き抜けました。

照明溶暗。子どもたち退場。

音楽広がる。

舞台いっぱいタイトル。子どもたち、タイトルコール。

▽天人として、雨宿りをする人を眺め、肩に止まる鳥を見る。

▽セットのがらまん岳は舞台後方だが、基本的にいつも客席の向こうにがらまん岳がある設定。

▼照明変化

▽映像／スライド。雲が、ひとつ、ふたつ、みつつ、よつつ。タイトル。

「アーマンチュのいた空。」

■シーン2 村はおおさわぎ／アーマンチュにちかびくな

少年、舞台を走ってやってくる。

舞台中央で立ち止まり、山を見上げる。

シユウタ でーじまぎい。アーマンチュ！ アーマンチュ！（叫ぶ）

あい、こつち見おつた！ わあ！（走り去る）

《場面1／畑を耕しているお百姓さん》

シインタロウ（畑を耕して）よいしょ、よいしょ。

ユウマ（畑を耕して）よいしょ、よいしょ。

シインタロウ はあ、どうしても、目に入ってしまうなあ。

ユウマ 見えるなあ。

シインタロウ 見えるなあ。

ユウマ 見えてしまうなあ。

シインタロウ はつき、まぎいさよ。

ユウマ うとうるさんやあ。なにかおこらないといいけどよ。

シインタロウ ええ、目つぶってみ。

ユウマ こんなか。（二人、目をつぶる）

シインタロウ うん。

▽すべてがゆっくり消える。

▽明かり先行。舞台が現代から、昔に変わったことを知らせるオープニング。少年、がんばれ。／シユウタのお父さんは村芝居のチームで役者をやっている。そのせいかどうかは分からないけれど、自覚がある。頼りになった。

▼照明《場面1》

▽シインタロウは、爆弾。とても大きな声で歌うし、自分の台詞はちゃんと覚えて大きな声で言う。そのエネルギーで随分助けられた。ただすぎさえあればおおよそすべてのやっつけはいいことをやる。（走る、さわる、開ける、よそをむく、隣の人をつつく、エトセトラだ。）百点満点とマイナス百点満点を持つ男。

▽まぎいさよ！！大きいことよ

▽うとうるさんやあ！！おそろしいことだなあ

▽二人のやんちゃが並んで芝居をしているのが、いろいろ抜きにして愛らしかった。

ユウマ もう、いいか？

シントロウ もうちよつと。

ユウマ もう、いいか？

シントロウ うん、せいので、あけようや。

ユウマ わかった。

ふたり せいの！（二人、目をあける）

シントロウ どんなか。

ユウマ どんなかって。

シントロウ いるなあ。

ユウマ いるさあ、はあ、あきさみよ。

《場面2／洗濯をする女たち》

ウミ あきさみよ、あばれだしたら大変。

ユメノ だからね。今はね、静かだけどね。

ウミ あんな大きかったら、もう、村ごと踏みつぶされるよ。

ユメノ はあ、あつというまだね。

ウミ （眺めて）まぎいさよ。はあ、大きいねえ。

ユメノ （眺めて）空が小さくなってるさ。山の向こうの。

ウミ だからよ。

《場面3／家族の晩ご飯》

リノ（姉）だからよ。人を見た目で判断するなっていうつもも言ってるさ。

ホノカ（妹） うん、うん。

リノ ちゃんとなかみを見なさいって。

▽今と昔。子どもたちはたくさん役を演じます。今の子ども、昔の村のおひやくしょうさん、漁師、女の人、お母さん、お父さん。語りで物語をつないだり、遠くの歌声になったり。想像する力を武器にして、今と昔をつなぐ旅に出るのさ。

▼照明《場面2》

▽偶然に早朝の短歌投稿番組を見ました。その中の一句「君逝きて窓辺の定位置空きたれば野島灯台の全景見ゆる」バルコニーにともに座る。配偶者が見渡す景色を妨げていた。いなくなると、すっきりと全景が見えた。／いつもいた人がいなくなると、みはらしがよくなる。よい景色。でも、みはらしがいいから、寂しい。／この作品にとりこんでいた頃だったので、共鳴のようなものを感じました。

▼照明《場面3》

▽ホノカは体をまっすぐ持つことが苦手。どこかがぶらぶら動いちゃう。前回、前々回はタラーの役で随分しほられた。今回はその感じが生きる役どころになっていて、よかった。楽しそうだった。

ホノカ うん、うん。

リノ お母さんなんかが見た目で判断してるさ。

ホノカ うん、うん。

アイカ(母) 見た目とかじゃないさ、あれは。

レイミ(父) 大きすぎるだろ。

《場面4／大きすぎる魚を抱えた漁師たち》

シユウタ (魚を持って) 大きすぎるだろ、魚！

サワコ 網にはいりきらん……。

シユウタ だからよ。逃がすか？

サワコ はあ、大きすぎて困ったなあ。

シユウタ (魚越しに見上げて) ええ、海からもよく見えるな。

サワコ だからよ、アーマンチュなあ。

《場面1／畑を耕しているお百姓さん》

シントロウ アーマンチュなあ。勝負にならないさ。

ユウマ あたいめーてー、ふまれたらおしまい、お前は、弱いのに。

シントロウ はあ、お前の方が弱いだろ。

ユウマ いいや、俺の方が強いぞ。

シントロウ やるか！

ユウマ よっしゃ！(ばかり)

シントロウ あがひやあひやあひやあ……。(泣く)

ユウマ 弱すぎるだろ、はあ、もう。

▼照明《場面4》

▼照明《場面1》

▽あたいめーてー||当たり前だよ

▽あがひやあ||あいたた、というような意味。

《場面3／家族の晩ご飯》

アイカ はあ、もう、わからないじゃないよ。

リノ だって、わるいひとじゃないかもしれんさ。

ホノカ うん、うん。

レイミ なにかあつてからじゃおそいわけさ。

ホノカ うん、うん。うん？

アイカ 早くごはん食べなさい。宿題しなさい。歯みがきなさい、顔洗いなさい、寝なさい！

ホノカ はあ、もう、いつこずつにして……。

レイミ とにかく、アーマンチュには近づいたらだめだよ、

リノ だって……。

父母 だってじゃない！

子どもたち ……はーい。

《場面2／洗濯をする女たち》

ウミ 空がね、

ユメノ 空がね。

ウミ うん。

ユメノ 空が、小さくなっているさ。

♪『あーまんちゅにちかづくな』

あーまんちゅにちかづくな

▼照明《場面3》

▽見に来たお母さん、苦笑い。

▼照明《場面2》

▼音楽が聞こえてくる。

▼照明、場面1、2、3、4の明かりが全部つく。子どもが前に移動してくるのに併せて、前明かり。

やまにいすわるこわいやつ

ひとふりうでいえこわす
ひとあしひとをふみころす
ひとふきむらがとばされる

あーまんちゆにちかづくな
やまにいすわるこわいやつ

ふたふりいえがなくなった
ふたあしひとがいなくなり
ふたふきやまもとんでいく

あーまんちゆにちかづくな
やまにいすわるこわいやつ

あーまんちゆにちかづくな
やまにいすわるこわいやつ

歌声が聞こえる中、溶暗。

■シーン3 アーマンチュと子どもたち、そして村の人たち

ナレーター三人板付き、声をきっかけに舞台明るく。

サワコ 大人たちは子どもたちに言い聞かせました。

みんな アーマンチュに近づいたらだめよ!!

アイカ けれども、子どもたちは興味津々です。

サワコ 少しずつ近づいていきました。

みんな アーマンチュに近づいたらだめよ!!

ホノカ アーマンチュの足の指のところは、かくれんぼをするのにびったり
だったし。

サワコ アーマンチュが小さな声で歌うと、涼しい風が吹いたし。

アイカ 冒険が好きな男の子たちはアーマンチュの足をよじ登るのをきょう
そうしました。

ホノカ ときどき、アーマンチュはくすぐったそうに笑って、子どもたちは

ちよつとびつくりして逃げ出したりしたけど、それは、ただアーマン
チュが笑っただけだったので、また、すぐに戻ってきて、

三人 大人には内緒で太陽が見えなくなるまで遊びました。

アイカ ある日のことです。

子どもふたり、登場。長い縄を持っている。音楽、いっしょに。

ユウマ 重たいよ。

シユウタ がんばれ、もうちよつと!

ホノカ 長い長い縄を持ってきました。

▽ナレーターは物語を見守る人として登場する。ただまっ
すぐ前を見てしゃべるのではなくて、噂し合ったり、心
配したり。というふうに出した。お姉さん二人と小さ
い子の組み合わせはかわいかった。

▽サワコは体調と相談しながらの参加だった。がんばっ
た。前回、前々回に比べて声はずいぶんしっかりとした。

▽上手から。ナレーターの前を通り過ぎていく。ナレー
ター、見守る。縄、無対象。(持っている「ふり」です。)

▽音楽(ライブ)といっしょに動く。

ユウマ 長い。
シュウタ がんばれ！
アイカ アーマンチュのひぎのところに、長い縄を引っかける作戦です。

準備が出来た。長い縄を何度もアーマンチュの膝をめがけて投げる。

シュウタ・ユウマ いっせいのせ！

アイカ・サワコ・ホノカ ビューンハラハラドン。

ホノカ 失敗です。

シュウタ もう一回行くぞ！

ユウマ うん。

シュウタ・ユウマ いっせいのせ！

アイカ・サワコ・ホノカ ビューンハラハラドン。

アイカ 失敗です。

シュウタ くう！ もう一回！

ユウマ うん。

シュウタ・ユウマ いっせいのせ！

アイカ・サワコ・ホノカ ビューンハラハラドン。

サワコ 失敗です。

ユウマ もう一回！

シュウタ うん！

シュウタ・ユウマ いっせいのせ！

アイカ・サワコ・ホノカ ヒュンヒュンパシッキュッ！

▽ユウマは、野球の試合、柔道の試合、神経性（多分）の腹痛と練習をよく休んだ。出会った回数が少ないのだけど、男子三人組の一人として、元氣いっぱい部門をつとめた。シュウタと二人のこのシーンは随分楽しそうだった。

▽全員で縄の動きを表現。縄が飛んでいき、重力に負け、ドン、と地面に落ちてしまう音。

うまく引かなかった。音楽・パンパカパーン！

シュウタ・ユウマ・サワコ・アイカ・ホノカ やったー！！

ホノカ ついに成功しました！

シュウタ よし！ のぼるぞ！

ユウマ うん！

シュウタ・ユウマ よいしょっ、よいしょっ！

アイカ・サワコ よいしょっ、よいしょっ！

ホノカ よいしょっ、よいしょっ！

やがて、膝の上にたどりついた。

息切れ、はあ、はあ。

シュウタ すっごいな！

ユウマ すっごい！

シュウタ 全部見えるなあ！

ユウマ 村、全部見える！

シュウタ はば！

ユウマ でーじはば！

シュウタ 広い！

ユウマ 楽勝！！

二人 イエーイ！！（ハイタッチ！）

アイカ 風の音、シュンッ！

▽みな楽しそうでした。

▽音楽、止まって下を眺め、音楽にあおられてすっごい早送りをしたり。男の子は体を動かすのが本当に好きだなあ。

▽はばはっかっこいい

▽でーじはばはっかっこいい

風の音。しゅん。

子どもたち、どきっ。ぶるぶる。

アイカ 風がしゅんと吹いたら、急におっかなくなつたよ。

サワコ だって、ずいぶん高いところに来てしまったからね。

ホノカ うん、うん。

シユウタ えーん。

アイカ 一人が泣き出したら、すぐにもう一人も泣き出した。

ユウマ ……えーん、えーん。

サワコ・ホノカ とつても大きな声で泣きだした。

男の子たち えーん、えーん。えーん、えーん。

アイカ 男の子たちの泣き声は遠くまで聞こえたので、だんだん大人たちも

集まってきました。

レイミ 大変だ！ こっちこっち！

ユメノ あきさみよー、でーじなたん！

シントロウ いちでーじ、いちでーじ！

レイミ だから、近づいちゃだめって言ったのに！

リノ 動いちゃだめよ！ 気をつけて。

ウミ 早く助けて！

アイカ アーマンチュがゆつくり動きました。

みんな きゃあ！

サワコ 村の人たちもまわりの子どもたちも息をつめました。

アイカ アーマンチュはそつとゆつくり手のひらを子どもたちに差し出しま

した。

▽あきさみよー||わあ！

▽でーじなたん||大変なことになった

▽いちでーじ||一大事！

ホノカ アーマンチュはそつと子どもたちを手のひらに乗せて、そつと体を
ねじって、そつと地面におろしました。

みんなほつとして、拍手したり子どもを抱きしめたり。
よろこびの声は歌になる。

♪『あーまんちゅはいいひとだ』

あーまんちゅはこわくない
あーまんちゅはいいひとだ

ひとつきもちがおだやかで
ひとりしずかにやまにいる
そらのうまにはあーまんちゅ

あーまんちゅはこわくない
あーまんちゅはいいひとだ

おおきいだけでやさしいよ
むらのみかたのあーまんちゅ
そらのうまにはあーまんちゅ

あーまんちゅはこわくない

▽男の子二人手のひらから地面にジャンプ。

あーまんちゅはいいひとだ

子どもたち、歌いながら退場。ナレーター、残る。

ウミ それ以来、子どもたちはアーマンチュウのところに遊びに行っても怒られなくなりました。

ユメノ 大人たちは、時々大きなものを運ぶのを手伝ってもらったり、野菜や果物や、ご飯を持っていったり。

ウミ アーマンチュウと村の人たちはすっかり仲良くなりました。

二人 (見合つて) 今日も、いつものように、日が暮れていきました。

■シーン4 タぐれ

夕暮れから星の空まで。スライド。

タぐれの音。子どもの遊ぶ声、帰る声、蛙が鳴く、虫の音。

シユウタ 今日のタぐれ。

ミオ カエルの声。昨日のタぐれ。

シユウタ 車に行く音。去年のタぐれ。

ミオ 風の音、友だちの声。運動会のタぐれ。

シユウタ 手のひらがじんじんする、遠くのチャイム。百年後のタぐれ。

ミオ UFOの光、宇宙人の声。いっせんまんねん後のタぐれ。

シユウタ 風の音、晩ご飯の音。昔のタぐれ。

▽タぐれの音。夏、漢那ダムでタぐれの音を聞きました。蛙の声や、虫の鳴く音、遠くの放送の音が聞こえたり、車が走っていく音や、風の音、葉っぱの鳴る音が聞こえました。耳をすませて聞いて、自分たちの手作りの楽器や海で拾った貝殻やガラスの瓶を鳴らしたりして、夕暮れの音を再現してみました。夕暮れのシーンで流れている音は子どもたちが演奏したものです。

▽いろんなタぐれの絵を移しました。春のワークシヨツプで子どもたちが描いた絵です。

▽イメージは、いわば異人たちとの夏。タぐれは逢魔が時です。出会わないはずの今の子どもと昔の子どもが出会って、タぐれにまつわる謎かけをして遊ぶ。きれいな、きれいな。透明な存在で現れて、タぐれの謎かけで共感しあうことにお互い輪郭が現れて、最後にお互いをしつかり認識して見つめ合つて手をつないで去る。というイメージでした。

ミオ カエルの声、虫の歌。遠い昔の夕ぐれ。

シユウタ 風の音、友だちの声。

ミオ・シユウタ あ、一番星！

一番星。

二人、手をつないで駆け去る

アーマンチュの歌声が小さく聞こえてくる。

■シーン5 アーマンチュとタラー

声をきっかけに明かり。

舞台後ろの紗幕にアーマンチュの影、シルエット。

レイミ ある夜、アーマンチュが小さな小さな声で歌っていると、

ホノカ アーマンチュが大きな声で歌うと嵐みたいになるからアーマンチュ

はいつでも小さい小さい声で歌うのです。

タラー、アーマンチュを見上げながら登場。下手台上。

レイミ 足のほうに小さな影。アーマンチュがその影の方を見るとそれは小

さな少年でした。

ホノカ 小さい少年は、アーマンチュに聞こえるように、大きな大きな声で「こ

んばんは。」と言いました。

▼紗幕にシルエットを映しました。

▽前回、前々回の小さい発表のとき、レイミはアーマンチュ、ホノカはタラーを演じた。オマージュです。タラーとアーマンチュが友だちになってうれしいことを思い出しながらしゃべってほしいとお願いました。

レイミ アーマンチュは息で吹き飛ばしてしまわないように気をつけて、そ
おっと「こんばんは。」と言いました。

二人、タラーを見守るように、去る。

以下、タラーは大きな声で、アーマンチュはささやきで。

タラー ……こんばんは！

アーマンチュ ……こんばんは。

タラー ボクは、タラー。

アーマンチュ こんばんは、タラー。

タラー うん、タラー。

アーマンチュ タラー。 ……君は、昼間、遊びに来ないね。

タラー ボクは、お父さんとお母さんがいないから、昼間は畑をしているん
だよ。

アーマンチュ ……そうか。

タラー ねえねえ、アーマンチュ、ぼく、アーマンチュみたいに大きくなれ
るかな？

アーマンチュ うーん。

タラー うーん。

アーマンチュ なれるさ！

タラー うん！ ねえねえ、アーマンチュ、アーマンチュのところからは何
が見えるの？

アーマンチュ 海の向こうの遠い国が見えるよ。こことは違う島のことだよ。

タラー へえ！

▽聞こえるかな？ こたえてくれるかな？
▽返事が来た！

▽うん、タラー。というときに、名前を呼ばれたことを
喜んで。ひとりぼっちの子にとって名前を呼ばれるのは
特別だと思う。このあとの「こきよつりゅうの旅の話」
にそっとシンク口する笑顔になる。

▽しんみりさせちゃったから立て直す。

▽もちろん、なれない ……（笑）。相手は山より大きい天
人です。でも、「なれるさ」「うん」と言い合うことで生
まれる、楽しい内緒、のような。二人の間の友情とか思
いやりとか、です。

アーマンチュ あっちには、赤いぴかぴかしたお城が見えるよ。王様もいるよ。
タラー うわあ……！

アーマンチュ タラーのところからは何が見える？

タラー ボクのところには、ほら、蛍がいるよ。ぴかぴか光っている。

アーマンチュ 星みたいに？

タラー 星みたいに。ぴかぴか光っているよ。

アーマンチュ へえ！

タラー ピカピカひかって、つーって飛ぶんだよ。

アーマンチュ 飛ぶ!？

アーマンチュは思わず大きな声を出したので、タラーは吹き飛ばされる、
こるり。

タラー ひゃあ!

アーマンチュ ごめんごめん!

タラー 大丈夫だよ。僕は小さいから。すぐ転がつちやうんだ。ほらね。コ

ロン! (と言ってもう一度転がつてみせる。)

アーマンチュとタラーは笑う。

■シーン6 星空を見る

同時に、今の子どもたち、笑う。舞台上手花道。

▽首里城のつもり、です。

▽アーマンチュに見えるものはタラーには見えない。タラーに見えるものはアーマンチュには見えない。

▽天人IIサクラとタラーIIミオは一番古いメンバーです。サクラは、エネルギーのようなものを内包している。爆発的な。不安定なところがあるけれども。ミオは、人を引きつけるものを持っています。

▽この「ひゃあ」は、……かわいかった。

ウミ　じゃあ、あれがはなのあなだわけ？

ホノカ　そちの右側がしつぽ！

レイミ　ほんとだ、ちようどいい。

シユウタ　じゃあ、これブタ座！

みんな　決定！　ブタ座！

ユメノ　…：なんか、星なのにロマンチックじゃない。

シユウタ　いいんだよ、そう見えるんだのに。

アイカ　昔の人もこんなして星座決めたんだね。

サワコ　すごいね。

ウミ　だからね。

レイミ　しし座ってどれ？

ウミ　ああ、私もしし座！

レイミ　ほんとに？

ウミ　たてがみとかあるのかな？

アイカ　たてがみ？

ウミ　うん、ライオンでしょ。

リノ　あ、ほんとだ、獅子ってライオンだ。

シユウタ　こつち、4つ並んでる。

ユウマ　どれ？

シインタロウ（全然違う方向をさして）あれ！

ホノカ　違うよ！

ユウマ　どれ？

シユウタ・シインタロウ（二人違う方向をさして）あれ！

ホノカ あれだよ！（シュウタと同じ方。）

リノ 遠すぎだし！

ホノカ ほらあそこ、屋根のまつすぐ上のところ。（立ち上がって指さす。）

シユウタ うん、それ。うんうん。

ユウマ だから、分からないってば〜。

シユウタ ほらあれ（ジャンプ。）

ユメノ ジャンプしても届かないよお。

ホノカ 遠いねえ。

シユウタ 遠い。

ユウマ あそこだよ、ほらあ！

シユウタ ああ！

シユウタ・シユウタ ね！

シユウタ 四角だ。

リノ 正方形。

ホノカ 正方形座。

レイミ そのまんまじゃん！

シユウタ 四角座。

レイミ だからそのまんまじゃん！

シユウタ お弁当箱！ あ！

みんな なに？

シユウタ おなかすいた。

ウミ まさか！ さっきあんなに食べたのに。

アイカ だからね。

ユウマ ざぶとん！

ウミ ああ、ぎぶとん！

リノ じゃあ、ぎぶとん座。

アイカ ぎぶとん座じゃ！

みんな なんじゃそりゃ〜。

ホノカ あれ、ほら、うさぎ。

リノ へんなかお。

ホノカ じゃあ、へんなかおのうさぎ。

リノ・ホノカ へんなかおのうさぎ座じゃ〜。(笑う。)

シュウタ カツ井、あれ、カツ井！

レイミ どこが？

シュウタ ほら、あそこがどんぶり。

レイミ あ、ああ。

シュウタ で、上んところ、カツ！(うれしそう。)

レイミ ……ほんとにおなかすいてるの？

シュウタ ……うん。

ユウマ あ！

みんな 流れ星！！

空をながめる、沈黙。

タラー、歌う。

アイカ なんか聞こえる。

サワコ ……うん、うた。うたが聞こえる。

■シーン7 なーぬみいやぬーんちよん

タラーとアーマンチュが歌う。

♪『なーぬみいやぬーんちよん』

(タラー) アーマンチュアーマンチュ

なーぬみいやぬーんちよん？

(天人) とおくのしまにくらすひと

ながいスカートゆれるはね

リンドンリンドン、ひらり

とうんじやいもーたいはいにたい

(天人) タラータラーちかりんな？

なーぬみいやぬーんちよん？

(タラー) あたびーあけじゅはーべる

どろんこいしころくさんぽな

ゆーらさっさい、しゃんしゃん

風んゆらりていにびじゅらさ

(タラー) アーマンチュアーマンチュ

なーぬみいやぬーんちよん？

▽タラーと天人、アカペラ。音楽は途中から細い音でそつと寄り添った。

「あなたの目は何を見ているの？」

アーマンチュ、アーマンチュ

何が見えているの？

遠くの島に暮らしている人が見えるんだ

長いスカートと揺れる羽

とんだり、踊ったり、跳ねたり

タラー、タラー、聞こえる？

何が見えているの？

カエル、とんぼ、チョウチョ

どろんこ、石ころ、草の花

風にゆられるといいにおいがするんだよ

アーマンチュ、アーマンチュ

何が見えているの？

下ったり上ったりする石畳

赤いお城に龍がのぼっている

太鼓三線うちならして

タラー、タラー、聞こえる？

何が見えているの？

緑の線は、ほら、蛍だよ

(天 人) うりたいぬぶたいいしだたみ
あかいおしろにのぼるりゅう
てんとうんてんとうん、
てんとうんてん
てーくさんしんうちならち

(天 人) タラータラーちかりんな？

なーぬみいやぬーんちゃん？

(タラー) みどりのせんは、あね、じんじん
よぞらにひかるみちしるべ
するりぴかぴか、きくらら
すり、かりゆしぬうとうじり

《しゅん、と流れる音。》

(タラー) あい！ アーマンチュ

流れ星が走ったよ

(天 人) タラーんーちゃんど

ふーちぶしぬうみんかい

(ふたり) 同じ星が見えてるよ

いぬふしんちゃんわったーたい

(タラー) 空を流れる ティンガーラ

夜の空に光る道しるべ
ほら、いいことがありそう知らせだよ

わあ、アーマンチュ！
流れ星が走ったよ！

タラー、見えたよ！
ほうきぼしが海に流れたね！

同じ星が見えてるよ
同じ星を見たね、僕たち二人
空を流れる天の川
アーマンチュならば届くかな

アーマンチュならば 届くかな

やまのおがわをながれてる
おみずすくったのませたい
つめたくあまいやまのみず
のんだらきつとうれしいよ

(天 人) ほしのひとつをあげたいな

すくったのひらひからせて

おうちもびかびかてらすはず

なめたらきつとあまいだろう

歌にかぶせて、スライド。

スライド1 夜になると村の人たちは歌を聞く。

スライド2 アーマンチュのところから聞こえてくる。

スライド3 静かできれいで、そして楽しそうな歌を聞く。

スライド4 アーマンチュとタラーはちがう世界をみている。

スライド5 アーマンチュはとつてもとつても大きくて、

スライド6 タラーはずいぶんちっちゃいから。

スライド7 ふたりは夜の空を見あげる。

スライド7 星はとてもとても遠くにあるから、

スライド8 遠いから、ふたりは同じものを見る。

スライド9 何万光年も。

スライド10 とおくの光がとどく。

スライド11 とおくの昔の光。

スライド12 ふたりは、星合わせをして遊ぶ。

スライド13 夜の星の空は

スライド14 大きな絵本だ。

■シーン8 星合わせ

今の子どもたち、歌う。空を見上げて。

♪『星あわせのうた』

どれからはじめよう

見わたすむこう

空、いちめんの大きな絵

見上げる空の、空の

ららららららら

知っているよ

ららららららら

どんなよるにも

きこえるうたが

空、かけぬけて笑ってる

見上げる空の、空の

らららららら

知っているよ

らららららら

耳をすませば

きこえる

ドレミ ミファミレド

ドレミ ミレミレ

空の絵本 星のうた

ほのか 空は高くて星がぴかぴか
みんな 星の物語を聞こう、星合わせをしよう。

【ホラ貝を吹き忘れたホラ貝吹きの話】

ウミ あれ！

ユメノ あと、あつちの白っぽいの！

リノ そう、あれだよ！

レイミ 人間だ。人の形。

男子 ホラ貝持つてる！

アイカ ホラ貝を吹く男の形に見えるね。

▽星あわせ。夜の空の星と星をつなげて新しい星座を作る遊びのことです。夏、私たちは、星図の星をつなげて絵を描いて、そうして本物の夜の空を見て、出来たての新しい星座を探しました。面白かったね。流れ星も大サービスの夜でした。

▽新しい星座を組み合わせて、3つのグループがそれぞれに「ホラ貝を吹き忘れた男の話」「夏の食べ物大星雲の話」「こぎょうりゅうの旅の話」というお話を作りました。

▼それぞれの新しい星座の絵をスライドで出しました。

▼ウミ、上手奥。

男子 ホラ貝を吹く男座にしよう。

ウミ ホラ貝を吹く男は、朝になるのを知らせるんだよ。

みんな ププー！

ウミ 夜明けのホラ貝だよ。

みんな ププー！

ウミ ホラ貝を吹く男は、右手にホラ貝、左手にはお酒の瓶をもつててき。

みんな ププー！

ウミ でも、お酒を飲み過ぎたから、ホラ貝を吹くのを忘れてしまつてから。

スフィンクスの形の神様がすつごい怒つたわけ。

してから、怒つたから、カニにかえてしまつた。

みんな お前なんかカニになつてしまえ！

ウミ だから、ホラ貝を吹く男はカニになつてたつて。

で、一年くらいたつたら、なんか体調が悪くなつた。

おかしいなあ、と思つてたら、

みんな お前なんか、馬になつてしまえ！！

ウミ で、馬になつたつて。

馬になつて暮らしていたら、また、一年たつてなんか体調がわるくなるわけ、まただわけ。

で、神様が言つたつて。

みんな お前、ざぶとんになれ！

ウミ で、最後に小さいざぶとんになつてから、今は、神様がそのざぶとんに座つて座つて座つて。

みんな 仕事はね、忘れない方がいいねつてことみたいよ。

▽ウミはしっかりお話することが出来ます。頼りになりました。「お話会」とか「学芸会」とかのパターンのしゃべり方を超えてほしい、というのが希望でした。後半で、すごくいい声でしっかり語つた。よかつた。

【夏の食べもの大星雲の話】

リノ 今日梅雨の最後の日です。

雷も大サーブスです。

男子 (飛び込んできて) がらん、どっしやん、ばらばらばら、どどん！

リノ 梅雨が終わると、たくさん食べる夏がやってきます。

7月から9月の夏の間は、おいしいものをたくさん食べる約束です。

まず、7月は、カツ丼です。(男子「カツ丼！」)

あれがカツ丼座です。(男子「カツ丼！」)

毎日、毎日、カツ丼を食べます。(男子「カツ丼！」)

夏の元気のためです。(男子「元気！」ガッツポーズ！)

8月は、冷やしうどんです。(男子「冷やしうどん！」)

さっぱりしているのでたくさん食べることが出来ます。

9月は、かき氷を食べます。(男子「かき氷！」)

必ずイチゴ味です。(男子、それぞれに好きなシロップを叫ぶ。リノ、

にらむ。)

あ、夏の間のおやつはプリンです。

カツ丼とプリン(男子「カツ丼とプリン！」)、冷やしうどんとプリ

ン(男子「冷やしうどんとプリン！」)、かき氷とプリン(男子「かき

氷とプリン！」)、で夏を過ごします。

みんな (怖い声で) これはとてもきびしい約束です。

リノ おいしいものをたくさん毎日食べることをしないと、ケーワイ刑務

所に送られてしまいます。

▼リノ、上手前。

▽男子たち、本領発揮、楽しそうでした。なにより、台詞を覚えなくても表現出来るのが楽しかったらしいです。あんまり楽しそうなので、そういうシーンを増やしたくなりました。

▽リノ、小さいけれどもしっかりとしていました。声に意志があって、いいです。男子をにらむところも、よかったです。

▽2008年にはやっていました。ケーワイ=KY=空気読めない、です。(未来のための注釈です、はい。)

男子 (おびえて) ひょ〜!

リノ そこではおそろしいことに草ばかりを食べさせられます。

男子 (もつとおびえて) ひょ〜!

リノ でも、実は、草を食べて胃を休ませて丈夫にして、また、おいしい

ものをたくさん食べられるようにするための刑務所なのです。

みんな みんな食べることが大好きな大星雲の話です。(走って上手退場。)

【こきょうりゅうの旅の話】

上手と下手にきれいな細い光の道が出来る。

下手から、お姉さん(ユメノ)と妹(ホノカ)のような。

手をつないで歩いてくる。お姉さんが指さして教える。

ユメノ あれがさ、たまごだわけ。

きょうりゅうのたまご。

きょうりゅうのたまごから、きょうりゅうが生まれて、小さいから、

子どもだから、こきょうりゅうだわけ。

一人で生まれたから名前がないわけ。

上手からもう一人の語り手が登場。

レイミ・ユメノ こきょうりゅうは、一人だったから、お母さんをさがしに

でかけたってば。

▽姉妹に見えたけれども、同級生だった。

▽ユメノは、秋から参加。表現することについて、デリケートで、本人はずいぶん大変そうだった。声と言葉が、なまり具合や、こなれていない感じがとてもよかったので、ここぞという台詞をふっていたので、こちらもゆずれず、つまり、お互いに大変だった、ね。

ホノカ、こきょうりゆうだ。

二つの光の道が交わる場所に明かりが灯り、導かれる。
下手から、そつとタツノオトシゴ（サワコ）が現れる。

レイミ たつのおとしごに会ったから、こきょうりゆうはきいたよ。

こきょうりゆう お母さんにあいませんでしたか？

レイミ タツノオトシゴは、答えた。

タツノオトシゴ 知りません、一緒にさがしていきましよう。

レイミ・ユメノ だから、ふたりは一緒にあるいて、お母さんをさがしたわけ。

二人、手をつないで光の輪をたどって歩く。

へんな顔のウサギ（アイカ）が現れる。

レイミ そしたら、へんな顔のウサギに会ったから、また、聞いて。

こきょうりゆう お母さんに会いませんでしたか？

レイミ へんな顔のウサギは、

変な顔のウサギ 見ていません。一緒にさがしましょう。

レイミ って言ったから、三人で歩いたわけ。

三人、その場でてくてく歩く。以下、マイムで演じる。

レイミ そしたら、手紙を見つけたから、こきょうりゆうはそつとポケット
に入れたつて。見つけたときすぐに、こきょうりゆうは自分への手

▽もらった手紙が読めない。ということについて、思い入れがあります。伝えようという意志は分かる、ということ。

紙だつて分かつたんだつて。でも、三人とも子どもだから、読むことが出来なかつたつて。しばらくいったら、おおきいおおきいテーブルがあつて、そこには、ワインと、サンドイッチと、大盛ご飯と、さくらんぼとあつて、三人はぱくぱく食べたつて。

大きくなつたから、こきようりゆうはポケットから手紙を出して見た。そしたら、何が書いてあるか分かつたつて。

ユメノ リュークへ。お母さんは、もぐもぐ星人から、お前を守つて死んでしまいます。でも、お前は元気に幸せに暮らして下さい、リューク、愛しているよ。

レイミ そこで、こきようりゆうは、(レイミ・アイカ) はじめて自分の(レイミ・アイカ・ユメノ) 名前がリュークだと(レイミ・アイカ・ユメノ・サワユ) 知りました。リューク、リューク、と声に出しました。名前を呼ぶと、元気になる気がしました。リューク、こきようりゆう 僕の名前は、リューク。

明かり、リュークを照らして、消える。

■シーンの 村のくらし、春、夏、秋、冬。

きれいな音楽が聞こえている。

暗転板付き、声きっかけ、明かり。

全員がばらばらに立っている。

▽三人、びっくり！

▽三人、ぱくぱく食べた、楽しそうに。よかった。

▽ひとりぼっちのタラーとシンク口する。気がつかなくてもかまわない。です。

リノ 空は高くて星がぴかぴか光って月はコトリと傾いて、きれいな歌声が村には流れる。

サワコ・アイカ アーマンチュと村の人たちはおだやかに過ごす。

みんな 春、夏、秋、冬。

ウミ 一人ぼちのタラーのことを、村の人たちは何かと助けている。

みんな 春、夏、秋、冬。

女子 アーマンチュのいる山には花が咲いて、木が伸びた。

男子 山はみどりになった。

シユウタ アーマンチュは緑の馬にまたがっているようだ。

今にも走り出しそうだ。

レイミ アーマンチュは、夏には涼しい影を作って、冬はニービシから村を守った。

ユメノ 村の人が眺める空にはアーマンチュの姿があった。

ホノカ アーマンチュの向こうの太陽、アーマンチュの向こうの月、アーマンチュの向こうの星。

全員 春、夏、秋、冬。春、夏、秋、冬。春、夏、秋、冬。

舞台溶暗。

■シーン10 雨がふらない。

舞台暗くなるにつれて、音楽、聞こえる。

たいこ、笛。悪い予感。

▽春、夏、秋、冬が、見事になりました。よかった。

◇ダンス「あしふみならず」

♪『空を見あげる』

空を 見上げる

空を 見上げる

きりぎりぎりぎりぎり

きりぎりぎりぎりぎり

いっもとちがう

いっもとちがう

空を見上げる

でいごの赤が

燃えるように

空を見上げる

あんなに咲いた

夏の始まり

畑の土が

やわらかかった

畑の土が

かわいてわれる

葉っぱの緑が

▽ダンスから、歌まで。かっこいいです。

みずいっぱいの

葉っぱの緑が

茶色くかわく

空を 見上げる

空を 見上げる

きりぎりぎり

きりぎりぎり

いっもとちがう

いっもとちがう

レイミ ある年のことです。その年はなんだかおかしかったのです。

ユメノ 見た？ あっちのいでいご、はつきあんなにまっかに花つけてるのは

じめて見たさ。

ウミ こっちもおんなじ、もう、わあって咲いてるよ。

レイミ 太陽が桃色に光っているよ。

リノ あきさみよ、空が赤くなってるから。

シユウタ こんな天気はじめてだ。

アイカ おかしいねえ、あんな大きい太陽、はじめて見たよ。

サワコ おかしいねえ、おかしいねえ。

村人たち おかしいよ、なんか、おかしいよ。困ったね、困ったね。

レイミ 空は、雨を降らすことを忘れてしまったのでした。やがて、畑がひ

び割れて、作物がどんどん枯れていきました。雨は、降りません。だ

んだん食べるものも少なくなっていきました。

▽でいごは、台風が多いとか、天災のある年にはでいごがたくさん花をつけるといいます。分母を増やすためです。

A アーマンチュの歌が聞こえない夜。

B アーマンチュのところにタラーが来ない。

ウミ ある日、アーマンチュのところに、前よりも小さくなったみたいに見えるタラーがやってきました。

アーマンチュ タラー、タラーか？

タラー タラーだよ、タラーだよ。

アーマンチュ 元気になっていた？

タラー アーマンチュ、元気になっていた？

アーマンチュ うん。元気だよ。タラーは元気？

タラー うん、うん。アーマンチュ、そこから何が見える？

アーマンチュ 海の向こうの遠い国、ピカピカ光る星、きらきらした赤い城。

タラー ……アーマンチュ、お願い、雨を降らせて。

アーマンチュ ……うん。雨が降ってほしいんだね！ ……タラー、どうし

たらいいんだろう、雨が降るためには。

ユメノ 二人は黙ってしまいました。アーマンチュは大きいけれども神様じ

やないんだ。魔法も使えない。

■シーン11 アーマンチュが立ち上がる。

みんな 次の日の朝、また、きらんきらんと大きい太陽がのぼる。

ウミ アーマンチュは空の上を眺めて、そして、ゆっくり立ち上がった。

▽タラーはアーマンチュの「元気？」って質問に答ええない。
元気じゃないんだ。

▽楽しかった時間の記憶。

▽思わず、頼んじゃうのだ。

ユメノ アーマンチュのまわりの木はぎしぎし音を立てて倒れた。

ウミ・ユメノ アーマンチュが動いたんびに土がどどつと落ちたり、岩がご

ろんごろん転がつたり、木がめきめき音をたててさけたりした。

レイミ アーマンチュは、ゆつくり手を伸ばしました。

A 雲を、遠くにある雲を。

B ひとつつかまえて、村の空へ。

みんな ぎしぎしめきめきごろんごろん。

A 雲を、遠くにある雲を。

B またひとつつかまえて、村の空へ。

みんな ぎしぎしめきめきごろんごろん。

A もつと手をのばして。

B もつともつと手をのばして。

みんな ぎしぎしめきめきごろんごろん。

A 雲を、遠くにある雲を。

B またひとつつかまえて、村の空へ。

レイミ 村の人たちはあわてました。

ユウマ あぎじえ！ アーマンチュが怒った！

リノ あいえなー、アーマンチュのことを忘れていたよ。

シユウタ ええ、ご飯、ご飯！

シントロウ ウートートー、アトートー！

シユウタ ご飯！

ホノカ アーマンチュが、山が、あきよー、山が動いてる！

シユウタ ご飯、最後に持っていったのはいつだった？

ユメノ 大変！ アーマンチュがあばれたら、もう村はおしまい！

ホノカ アーマンチュ、静かにして！

アイカ あばれないで！

みんな うごくな！ すわつていて！

ウミ・レイミ それでもアーマンチュは時折、ふう、ふう、と言いながら両手をいっぱい伸ばして空をかきます。ぎしぎしめきめきごろんごろん。その姿はすいぶん恐ろしいのです。

その姿をタラーは首をいっぱい曲げて見上げている。

やがて、タラーはアーマンチュが何をしているか理解する。

タラー そうか、雲だ！ 雲だよ！

シユウタ タラー、逃げろ！

タラー 大丈夫！ 雲だよ、雲を集めているんだよ！

レイミ すっかりこわくなってしまった村の人たちにタラーの声は聞こえません。

ウミ みんな、石ころや棒きれや、

レイミ やがて、かまやくわをアーマンチュめがけて投げます。

タラー やめて、みんな、(石ころがあたる) あいた！

アイカ タラー、早く、こつちへこい！ 早く逃げろ！

タラー やめて、やめて、アーマンチュは怒ってないよ、雲だよ、雨だよ、

雨を降らせようとしているんだよ。

男子 タラー、早く、こつちへこい！ 早く逃げろ！

タラー アーマンチュは怒ってるんじゃないんだよ！ (泣き声)

▽タラー、気づく、笑顔！

▽村人たち、マイムでいろんなものを天人に投げる。

▽思わず頼んじたことの顛末だ。

沈黙。

レイミ アーマンチュは手を止めて、そつとタラーを持ち上げて肩のところに乗せて言いました。「しつかりつかまって。」

ホノカ タラーはアーマンチュの首のところにしつかりつかまりました。

ウミ 村の人たちが投げるカマやラクワや石つぶてのせいで、アーマンチュの足のあちこちから血がにじんでいます。

ぼとん、ぼとん。

アイカ 遠くまで手を伸ばしては村の空に雲を集めるアーマンチュから水の粒が落ちます。

ぼとん、ぼとん。

ユメノ アーマンチュの汗なのか、涙なのか、雲から落ちる雨の粒なのか見分けがつきません。

リノ アーマンチュの体は白い霧のようなもので覆われてきました。どんどん空へ上っていきます。

アイカ・サワコ・ホノカ 集めた雲も増えていきます。

ウミ やがて空は黒く重い雲で覆われました。

ぼとん、ぼとん。

あともう少し。

ユメノ アーマンチュは最後の力を振り絞って、遠くの雲を捕まえるとええい、と両手で引き寄せました。

シウタ あんまり強い力でええい、とふんばったので、そのまま、村から飛び出してしまいました。

どどどん！

空を飛んでいくアーマンチュを眺める。

レイミ アーマンチュは空を飛ぶみたいにして、海を越えていきました。

ウミ そして、同時にざざあつと雨が降りました。村の人たちはもう、ぽかんと空を見上げました。

みな、ぽかんと空を見上げる。

静かな滴の音。ぼろん、ぼろん、やがて音楽。

ゆっくりと理解する。そうだ、雨だ、これは雨だ。

村人たち、舞台いっぱいになり、喜ぶ。

村人たち 雨だ、雨だ！ 雨が降ってきたぞ！

音楽、止まる。村人、止まる。

振り返る。語り手として、

舞台溶暗。

音楽、続く。

■シーン12 エピローグ

声きっかけて明かり。

最初に絵本があった場所に子どもたち、大きな絵本を全員で囲む。

ウミ さて、タラーとアーマンチュをその後見た人はいないので。

レイミ アーマンチュの大きな足跡が村には残りました。

シントロウ・ユウマ そこは足跡の形の湖になりました。

レイミ ずうっと後になって、日照りになったときにも、

アイカ その湖の水だけは決して枯れることはなかったといいます。

舞台の向こうに大きな空。青い。広い。空。現れる。

リノ もう片方の足跡は伊計島に残っているといえます。

サワコ 村の人たちはがらまんの山を見ます。

シユウタ アーマンチュのいなくなった空は広くなりました。

ホノカ 星がぴかぴか光る夜には、

ユメノ アーマンチュとタラーの歌う歌が聞こえるんだそうです。

▽みんなで一冊の絵本を囲む姿はとてもきれいでした。

▽このとき、始めてホリゾントを染めました。山の向こうに青い空が広がった。

ページを繰ると、絵本が光る。

絵本を眺める子どもたちの顔を照らす。

サクラ 耳をすませたら、きつと聞こえるんだそうです。

ミオ 静かできれいで、楽しそうな歌です。

静かに絵本を閉じる。

舞台溶暗。

了。

暗転中整列。

明かりが入って、おじぎ。「ありがとうございました。」
音楽聞こえる。

♪『なーぬみいやぬーいちよん』

みんなで歌う。

ーおしまー

33

Vox. 1
 そら を み あ げ る そら を み あ げ る そら を み あ げ る そら を み あ げ る

Vox. 2
 ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら

Vox. 3
 い つ も と ち が う い つ も と ち が う い つ も と ち が う

37

Vox. 1
 そ ら を み あ げ る そら を み あ げ る そら を み あ げ る

Vox. 2
 ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら

Vox. 3
 い つ も と ち が う い つ も と ち が う い つ も と ち が う い つ も と ち が う

41

Vox. 1
 そら を み あ げ る そら を み あ げ る そら を み あ げ る そら を み あ げ る

Vox. 2
 ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら ぎ ら ぎ ら ら ぎ ら そら を み あ げ る そら を み あ げ る

Vox. 3
 い つ も と ち が う そら を み あ げ る そら を み あ げ る

45

Vox. 1

Vox. 2

Vox. 3

17

Vox. 1
はたけの つちが はっぱのみどりが はっぱの

Vox. 2
かった みずいっ ぱいの

Vox. 3
かわいてわれる

21 **Allegro**

Vox. 1
みどりが そらを見あげる

Vox. 2

Vox. 3
ちやいろくかわく

25

Vox. 1
— そらを見あげる —

Vox. 2
でいごのはなが — あんなにさいた

Vox. 3
もえるよう — に —

29

Vox. 1
— そらを見あげる そらを見あげる そらを見あげる

Vox. 2
— ぎら ぎららぎら

Vox. 3
なつのはじまり —

空を見あげる

作詞：上田真弓
作曲：犬塚拓一郎

Vocals 1

Vocals 2

Vocals 3

mf そらを見あげる そらを見あげる

Vox. 1

Vox. 2

Vox. 3

そらを見あげる そらを見あげる そらを見あげる そらを見あげる

mf ぎら ぎららぎら ぎら ぎららぎら ぎら ぎららぎら ぎら ぎららぎら

mf いつもとちがう いつもとちがう

Vox. 1

Vox. 2

Vox. 3

そらを見あげる そらを見あげる そらを見あげる

ぎら ぎららぎら ぎら ぎららぎら ぎら ぎららぎら

いつもとちがう いつもとちがう いつもとちがう いつもとちがう

Vox. 1

Vox. 2

Vox. 3

Moderato (♩=80)

そらを見あげる そらを見あげる はたけのつちが

ぎら ぎららぎら ぎら ぎららぎら やわらか

いつもとちがう

星あわせのうた

Allegro ♩=♩³

作詞：上田真弓
作曲：上田真弓
犬塚拓一郎

mf

1. ど れ かな ら は じ め よ う ー み わ た す
2. ど ん かな ら は る ー に も ー き こ え する

4

む こ う ー そ ら い ち め ん の ー
う た が ー そ ら か け ん け て ー

7

お お き な え ー み あ げ る そ ら の ー そ ら の
わ お ら ー つ て る ー

11

ラ ラ ラ ラ ラ ー し ー つ て い る よ ー ー

*2回めは上の音符を歌う。

Slowly

15

ラ ラ ラ ラ ラ ー み み を す ま せ ば ー

Allegro

19

き こ え る ド レ ミ ミ

23

ファミレド ー ド レ ミ ミ レ ミ レ ー

26

そ ら の え ほ ん ー ほ し の う た ー

33
や ま の お が わ を な が れ て る

37
お み ず す く っ て の ま せ た い

41
ほ つ め た く ひ と あ ま い や ま の み ず
し の ひ と つ を あ げ た い な

45
す の ん だ ら て き っ と ら う れ し い よ
く う て の ひ ら ひ か ら せ て

49
や ま の お が わ を な が れ て る
お う ち も お が び か び か て ら す は ず

53
お み ず す く っ て の ま せ た い
な め た ら き っ と あ ま い だ ろ

57
ほ つ め た く ひ と あ ま い や ま の み ず
し の ひ と つ を あ げ た い な

61
す の ん だ ら て き っ と ら う れ し い よ
く う て の ひ ら ひ か ら せ て

65
お う ち も び か び か て ら す は ず

69
な め た ら き っ と あ ま い だ ろ

天人のいた空 (な-ぬみいやぬ-んちよん)

三線バージョン

Allegro (♩=120)

アー マン チュ アー マン チュ なー ぬ み やー
タラー タラー ちか り ん な なー ぬ み やー

ぬ- ん ちよ ん とお く の し ま に くら す ひ と
ぬ- ん ちよ ん あた び い し あ け た じゆ は い べ た る
みど り の の ぬぶ た い い し だ た ん じん

な が い ス カー トろ ゆれ る は ね リン ドン リン ドン
どろ ん こ いし ころ くの き ん ば な ゆー さつ リん さい
あ から い おし ころ に の ほ り りゆ う す る と う ん り び てん と う ん
よぞ ら に ひ か る みち し る べ す り び か び か

ひ ら り と う ん じゃ い もう た り い は に た り さ
しゃ ん しゃん か じ ん け ん け ん じゆ じゆ ら さい
てん と う ん てん てん す ー り かり し ぬ う と う じり
き ら ら ら す ー り かり し ぬ う と う じり

あい! あー まん ちゆ な が れ ぼ し が は し っ た よ

タラー! んー ちゃん ど ふー ちぶ し ぬ う み ん か い

お な じ ほ し を み て い る よ い ぬ ふ し ん ち ゃ ん わ っ た ー た い

Moderato

そ ら - を よ こ ぎ - る て い ん が -

ら アー マン チュ な - ら - ば と ど く か な

40

46

2.

て ほく たち は

mp

52

で あ う ほ し の も の が た

57

り と も だ ち の は な し

20

り 1. か ぜ が は こ ん だ る ー
2. ほ し が と ど け だ る ー

25

う た ご え き い と を ー ほ く た ち が な が
う た ご え き い と を ー ほ く た ち が な し っ

30

め て ー そ い は る ー ー い っ
い っ

35

せん せん ま ん ね ん か を ら な い
せん せん ま ん ね ん か を こ な え

いっせんまんねん

作詞：上田真弓
作曲：犬塚拓一郎

♩ = 104



mp

5



mp

1.2. と お く の む か し の も の が た り や ー ま の

10



む こ う の と も だ ち の と お く の む か し の

15



と も だ ち の で あ っ て わ か れ る も の が た

付／楽譜

いっせんまんねん

天人のいた空（なぬみいやぬんちゃん）

星あわせのうた

空を見あげる





COPYRIGHT © UEDA Mayumi & GARAMAN KIDS STUDIO, ALL RIGHTS RESERVED.

